

デュッセルドルフ日本人学校における特別支援教育体制整備とその実践

前デュッセルドルフ日本人学校 教諭

大阪府堺市立東三国丘小学校 教諭 松 本 晃

キーワード 在外教育施設、デュッセルドルフ、特別支援教育、通級指導教室

赴任校の概要（2024年5月1日現在）

デュッセルドルフ日本人学校

Japanische Internationale Schule in Düsseldorf

URL：https://www.jisd.de/

児童生徒数：小学部352人 中学部104人

1 はじめに

堺市教育委員会事務局学校教育部支援教育課での指導主事としての3年間の業務を終え、2022年度より3年間、ドイツのデュッセルドルフ日本人学校で文科省派遣教員として勤務した。2022年度は、徐々にコロナウイルスの感染が収束し、通常の学級活動が行えるようになったところであった。デュッセルドルフ日本人学校は、全日制の小中一貫校だが、土曜日は日本語補習校として授業を行っている。そのような学校で、私は2023年度より、特別支援教育コーディネーターを担うこととなった。通常の学級の担任や就学相談を担当する中で、特別な支援が必要な児童生徒数が増加していると感じた。数値化すると、2023年度からは全児童生徒数の7%を超えていることが分かった。やはり特別な支援が必要な児童生徒数が増加傾向にある。そこで、校内の特別支援教育の推進や校内の体制整備をめざし、「通常の学級における個別の指導計画の作成」「2025年度の通級指導教室の設置」「特別支援教育校内体制整備ガイドライン」の作成等を進めた。

2 デュッセルドルフ日本人学校における特別支援教育の推進

(1) 個別の指導計画の作成

様々な自治体の様式を参考にしながら、個別の指導計画の様式を作成した。長期目標や短期目標、支援の手立てやその結果等をまとめることで、学校全体で児童生徒の支援にあたることができた。また、感覚統合や人的環境のUDなどの視点を取り入れながら、実態把握や支援体制を整えていくことができた。

個別の指導計画（記入例）			
児童生徒氏名	〇〇 〇〇（〇〇〇〇 〇〇〇）	作成日	20〇〇年〇月〇日
年 組	〇年〇組	担任名	〇〇 〇〇
		最終更新日	20〇〇年〇月〇日
得意なこと・好きなこと			
<ul style="list-style-type: none"> ・文字（ひらがな・カタカナ・数字）を書くこと。（家庭・学校） ・音一音の発音は正確にできる。（学校） ・外遊びや体育が好き。（1学期：体育当番）（学校） ・サッカー、そろばんを習っている。（家庭） ・積極的に自分の意見や考えを発表することができる。（学校） 			
苦手なこと			
<ul style="list-style-type: none"> ・音を聴いて言葉として発音すると、不明瞭になる。（家庭・学校） ・教員が顔について発音を指導しようとするのが苦手。（学校） ・自分の思いと違うことがあると、気持ちを崩し、活動に参加しにくい。（学校） ・はじめてのドッジボール（友達が発達のことをボールで当てることに困惑） ・種（チョコと認識）がもらえなかった。（学校） ・鬼ごっこで鬼になれなかった。ボールを投げる、持ち帰ることができなかった。（学校） ・することがないとき（課題が終わった、読み聞かせ等）に机や床等に強く段間を押し当てる（学校：9月頃から、家庭：以前より） 			
家庭からの情報か、学校からの情報か分かるように記入する。			

個別の指導計画の様式

(2) 通級指導教室設置に向けて

2023年の7月、過去に特別支援学校の指導教諭をされていた方が本校を訪問された。そして、週に1日、リソースルームで自立活動に準じた個別指導を行うために勤務していただくこととなった。この時点では試行実施であったが、この取り組みがうまくいけば、将来的にリソースルームを通級として運用していきたいと考えた。当時の校長や理事運営委員会はこのことに肯定的であったが、日本人学校に特別な指導の場を設置す

[illegible]

リソースルームは「Bitte ルーム」という名前で2023年10月から運用を開始することが決まった。加えて、デュッセルドルフに在住する日本人の言語聴覚士の方からBitte ルームでの実践に協力したいと話があり、週1日、2名体制で指導を進めることとなった。Bitte ルームでは、集団での学習や生活に困り感のある児童生徒を対象に毎週1時間、感情のコントロール、読み書き、構音指導、体幹トレーニングなどを行った。

Bitte ルームの利用については、教育相談を行い、校内委員会で協議し、指導や支援の方向性を決定し、利用の開始を行った。2023年度のBitte ルーム開室時は5名の利用であったが、低学年を中心に利用が増え、2025年度は14名が利用していた。

リソースルーム 「Bitte ルーム」 （２０２４年度）

- ◆ 集団での学習や生活に困り感のある子ども
- ◆ 週に１時間程度の個別指導
 - ・感情のコントロール、読み書き、発音、体幹トレーニングなど
- ◆ ４名での指導体制
 - ・Bitte ルーム担当教員２名
 - ・言語聴覚士、臨床心理士（週１～２日程度）

I 教育相談

2 校内委員会

3 利用の開始

リソースルーム「Bitteルーム」の利用について

※特支Co.: 特別支援教育コーディネーター

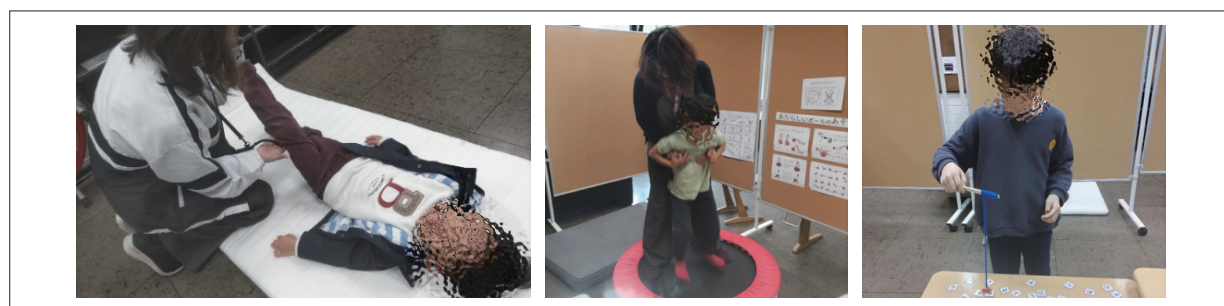
01	02	03	04
指導者 	担任、特支Co.	保護者、担任、特支Co.、学童指導員、特別支援教育指導員	担任、特支Co.、学童指導員、特別支援教育指導員
相談	教育相談	アセスメント 実施等	

01	02	03	04	05
指導者 	学年会等	特支Co.	保護者、担任、特支Co.、学童指導員、特別支援教育指導員	保護者、担任、特支Co.、特支指導員、特別支援教育指導員
相談		アセスメント 実施等	教育相談	

・リソースルーム運営委員会は、利用できる、利用できないではなく、その子に必要なことや、学校とすることができることを検討する。

・相談対応としては、月1回程度、放課後の利用。固定した時間にするのではなく、流動的に利用することなども考えられる。教育相談を行った場合、通常の学級での合理的配慮を行うことによって改善される可能性のある場合は、リソースルームを利用しないことも想定される。

利用時のフローチャート



(158) 令和7年度 在外教育施設における指導実践記録

(4) 特別支援教育校内体制整備ガイドライン

特別支援教育のさらなる充実をめざしていくために、「特別支援教育校内体制整備ガイドライン」に本校での取り組みをまとめ、全教職員で共有した。ガイドラインを作成する際には、様々な自治体から出ているものを参考にしながら、デュッセルドルフ日本人学校に合ったものになるよう進めた。「本校の特別支援教育のめざすところと現状」「校内体制」「個別の指導計画・個別の教育支援計画について」「通級指導教室『Bitte ルーム』について」と、大きく4つのことについてとりまとめ、教職員の共通理解を図った。2025年度からはBitte ルームが通級指導教室になったことから、個別の教育支援計画の作成にも取り掛かった。

 <p>特別支援教育 校内支援体制整備 ガイドライン</p> <p>デュッセルドルフ日本人学校 2024年4月</p>	<p>目次</p> <p>はじめに……………1</p> <p>1 本校の特別支援教育の目指すところと現状……………2</p> <p>1-1 目標……………2</p> <p>1-2 特別な支援や配慮が必要な児童生徒数……………2</p> <p>1-3 就学相談の現状……………2</p> <p>1-5 特別支援教育推進計画……………3</p> <p>2 校内体制……………6</p> <p>2-1 校内組織図……………6</p> <p>2-2 教職員の役割……………7</p> <p>2-2-1 校長……………7</p> <p>2-2-2 教頭……………8</p> <p>2-2-3 教務主任……………8</p> <p>2-2-4 養護教諭……………8</p> <p>2-2-5 特別支援教育コーディネーター……………9</p> <p>2-2-6 学年主任……………10</p> <p>2-2-7 学級担任……………10</p> <p>2-2-8 生徒指導主任……………11</p> <p>2-2-9 関係教職員（教科担当等）……………11</p> <p>2-2-10 特別支援教育担当教員……………11</p> <p>3 個別の指導計画・個別の教育支援計画について……………13</p>	<p>3-1 個別の指導計画・個別の教育支援計画とは……………13</p> <p>3-2 個別の指導計画作成スケジュール……………13</p> <p>3-3 個別の指導計画の作成手順……………15</p> <p>3-4 特要要因……………16</p> <p>3-5 個別の教育支援計画【様式】……………18</p> <p>3-5 個別の指導計画【様式】……………19</p> <p>3-5 個別の教育支援計画【保護者記入用】……………24</p> <p>4 通級指導教室「Bitte ルーム」について……………25</p> <p>4-1 Bitte ルームの開設経緯とその目的について……………25</p> <p>4-2 Bitte ルームによる指導の対象となる児童生徒の状況と指導内容について……………25</p> <p>4-3 連携と校内の体制づくり……………26</p> <p>4-4 通級指導教室「Bitte ルーム」の開設について……………27</p> <p>（保護者用知文）……………27</p> <p>4-5 Bitte ルーム連絡カード……………32</p> <p>4-6 Bitte ルームの教室環境……………33</p> <p>4-7 具体的な指導例……………34</p> <p>4-8 2024年度の取組……………34</p> <p>参考資料……………45</p>
---	---	---

特別支援教育校内体制整備ガイドラインの内容

(5) 遠隔支援コンサルテーション

海外子女教育財団は、文部科学省から事業を受託し、遠隔支援コンサルテーションを行っている。国内の特別支援学校等と在外教育施設を繋ぎ、在外教育施設のインクルーシブ教育の推進、指導・支援の充実、校内支援体制の充実をめざす事業で、過去はアジアの日本人学校で事業を実施していたが、2024年度に初めてヨーロッパにも展開され、デュッセルドルフ日本人学校に声が掛かった。横浜国立大学のD&I教育実践センターのスタッフの方々とオンラインで繋がり、対象児童をあげ、ケース会議を実施した。2024度は合計4回実施し、うち1回は来校され、実際に児童観察をした上で、全教員への講話を行っていただいた。



遠隔支援コンサルテーションの様子

3 欧州における特別支援教育の推進

ロッテルダム日本人学校の特別支援教育コーディネーターとともに、欧州日本人学校における特別支援教育に関するオンラインネットワークの構築を行った。時差を気にせず、それぞれの学校での取り組みや困難な点の情報共有をしたり、対応策について協議したりすることができた。計11校の日本人学校に参加していただくことができたが、不定期で開催したため、参加される学校数にばらつきがあったり、参加数が少ない回があったりと、実施の方法に改善の余地があった。今後も継続して情報を共有し、各校で特別支援教育を推進していくためには、年間の予定を予め設定し、周知する等、持続可能な形で運営していく必要があると感じた。

4 おわりに

大人になっても、これほどたくさんの人に助けてもらいながら生きていくのだと、人との繋がりや温かさを強く感じた3年間であった。

通級指導教室設置を含めた校内の環境整備や、個別の指導計画・教育支援計画の様式の作成、特別支援教育にかかるスタッフの勤務条件の整備、ガイドラインの作成等では、教育委員会事務局で学んだことを活かすことができた。その学校に本当に必要なことを、その学校に一番合う形や方法で進めていくことができる点が、日本人学校のよさであり、強みであると感じた。以下に、コーディネーターとしての2年間で取り組んだことを時系列でまとめた。未だ、在外教育施設の特別支援教育における体制整備は十分であるとは言い難い。デュッセルドルフ日本人学校での取り組みが、在外教育施設での教育を担う方の一助になることを願っている。

2023年 4月	通常の学級における個別の指導計画の作成開始
6月	元支援学校指導教諭の雇用条件の整備
7月	元支援学校指導教諭の雇用（ミニジョブ制度・週1日8時間勤務・1年間のみ）
8月	通級指導教室の設置を含めた今後の方向性の検討・決定
9月	言語聴覚士のボランティア体制の整備
10月	リソースルーム「Bitte ルーム」の試行運用開始
2024年 2月	次年度のBitte ルームの運用継続を決定
4月	「特別支援教育校内体制整備ガイドライン」の作成 臨床心理士（ミニジョブ制度・午前中のみ週2日、計8時間勤務）、言語聴覚士（ミニジョブ制度・週1日8時間勤務）の雇用
5月	欧州日本人学校特別支援教育ネットワークの構築
7月	通級指導教室設置にかかる体制整備・書類作成 【学校運営規則、特別支援教育体制規程、通級指導教室運用要項等】
10月	遠隔支援コンサルテーション実施の決定・開始
2025年 4月	通級指導教室設置 個別の教育支援計画の作成

特別支援教育コーディネーターとしての取り組み